



図書館 だより

図書館 ☎ 69♦3706

おしえて! 図書館 (レファレンス)

Q ハロウィーンについて、わかりやすく書かれている本はある?

A こちらの本はいかがでしょうか。



ハロウィーンってなあに?
主婦の友はじめてブック
おはなしシリーズ
クリステル・デモワノー/作
中島さおり/訳
主婦の友社

由来から、ジャックのランタン伝説、かぼちゃのランタンやタルトの作り方、おばけの仮装の衣装まで、ハロウィーンのことをがっちりわかる絵本です。10月31日は楽しいハロウィーンを!

レファレンスとは情報や本などを探すお手伝いをする図書館のサービスのひとつです。

図書館に入った本



毎月1,000冊以上の本が入ります。
一部をご紹介します♪

小説・エッセイ	『昨日の海は』 近藤史恵/著 PHP 研究所
	『村上さんのところ』 村上春樹/答えるひと フジモトマサル/絵 新潮社
料理	『旅とデザート、ときどきおやつ』 平澤まりこ/著 河出書房新社
人生訓	『古い駆ける! 人生』 草野 仁/著 KADOKAWA

貸出中の場合もありますので、本が見当たらない時はお気軽に職員にお尋ねください。

カピバラのショー

■人気のカピバラショー

「まったくもってショーをやらないのがショー」として発表したカピバラのショーが大ヒットして、テレビなどのさまざまなメディアに取り上げていただいたので夏休みは常に満員でした。ショーをテキパキとこなすアシカとは正反対で、カピバラはスタッフのいう事はまったく聞かずにマイペースでバラと人間の価値観は違うという事がわかりましたね」とスタッフ

が悲しく言い放って終わる世にも不思議なショーです。

■苦難だったショーの構成

カピバラショーの原型は北海道の水族館でおこなっている「ペンギンのショー」で、やはり大量のペンギンがアチコチ動き回ってあまり種目をせず終わるといふもの。この水族館には親しい友人がいるので、遊びに行った時に詳しく話を聞いて、これをカピバラにアレンジして完成させました。

ショーを担当するスタッフは桑山と塚本というアシカショーも未経験の2人。ショーの内容を組む

■ポイントとなったトーク力

ショーに必要なのはアシカショー同様、動物の生態や性格を理解して状態を整えると同時に「しゃべる力」が必要不可欠で、そもそもショーなのに種目をやらないのだから「やりません」ではお客さんに怒られてしまう。それを怒られないように、お客さんが満足

立ててお客さんに見せられる形にするまで非常に苦労をしてみました。そもそもショーをしないうというのをショーにするという言っていることとやるのがムチャクチャの現象を完成させてそれをお客さんに見せて満足してもらい、それをやりなさい、と言われたのですからその道のりは多難。2人は毎日だえ苦しんで時に力なく遠くを見つめていましたね。

ショーは動物が種目をこなしてそれをお客さんが見て楽しむ、という常識をくつがえした逆転の発想で生まれたものなので、その人や驚きは狙い通り。今では安定して毎日順調に種目をやらないカピバラのショーが愉快におこなわれています。



水族館



館長 小林龍二

竹島水族館
☎ 68♦2059